

## 鹿本農業高等学校「食農研究会」の農業体験に係る取組

### 1 農業体験活動の取組

#### (1) 幼・保・小・中・高連携の取り組み

○鹿本農業高校食農研究会における農業体験の取り組みは、平成11年度から始まり、山鹿市内の保育所・幼稚園、小中学校からの依頼で、食農研究会の生徒が学校に出向き、学校農園や花壇などで高校生の指導により、園児や児童生徒が野菜や大豆の栽培体験交流に取り組んでいます。



みさを大豆の種まき



学校での野菜づくり

○取組のきっかけは、子どもたちのピーマン嫌いを克服させようと試行錯誤した結果、自分で種を播き、育てる、栽培体験に取り組んでみてはどうだろうかということで、高校生と園児と一緒に栽培体験を行った結果、子どもたちがピーマンを食べられるようになったということです。このようなことから、毎年、野菜等を栽培する中で、子どもたちに食や農に興味をもたせるように継続的に取り組むようになりました。

○平成22年度からは、日本人の生活に深く根付いている大豆の自給率がわずか6%と低いことや地域や保護者へのアンケート調査からも食料自給率の関心が低く、「大豆」を食材とした食文化の継承が薄れていることが分かり、大豆の栽培体験と収穫した大豆を使った味噌造りや郷土料理の料理体験にも取り組んでいます。

○平成23年度からは、現在、ほとんど栽培が行われていない熊本県の在来品種の「みさを大豆」の存在を知り、地域固有の農業資源を活用するということで、「みさを大豆」の栽培体験の取り組みを行っています。また、栽培体験交流に取り組む山鹿市内の幼稚園、保育園、小中学校の学校給食への「みさを大豆」の普及にも取り組み、高校生たちが考案した「大豆野菜カレー」やビーンズカレー、ポークビーンズ、チリコンカンの材料として提供しています。

○さらに、「みさを大豆」の栽培体験と味噌造りの他、「みさを大豆」の加工品として、大豆粉のホットケーキミックス作りを行い、その大豆粉を使ってホットケーキ作り体験にも取り組んでいます。



みさを大豆の収穫



大豆や野菜を使った給食交流会

## (2) 復興支援への取り組み

○栄養価の高い大豆を使うことで、「被災地の子どもたちを元気にしたい」という思いから、一緒に「みさを大豆」を栽培した山鹿市内の幼稚園・保育所、小中学校から提供していただいた大豆や鹿本農業高校で栽培した大豆で、地元の製粉業者の協力のもと、「復興応援ホットケーキミックス」を1000袋(250g/袋)製造し、平成24年3月、みさを大豆の栽培体験を行った子どもたちのビデオメッセージと一緒に、宮城県名取市の宮城県農業高校と名取市社会福祉協議会に届けられました。

○平成24年度は、復興支援を継続した取り組みとするため、宮城県名取市の閑上地区の笹かまぼこ製造業者の「ささ圭」とのコラボとして、みさを大豆を使用した笹かまぼこの商品化に取り組んでいます。

大豆粉を使用した「おとうふかまぼこ」、みさを枝豆を使った「みさを枝豆七味笹かまぼこ」を製造し、ゆりあげ港朝市で紹介、試食販売を行い、12月から本格的に「おとうふかまぼこ」の製造販売が始まっています。

○この鹿本農業高校の復興支援の取り組みが JA 全中が主催する「全国高校生みんなDE 笑顔プロジェクト」の被災地コラボレーション部門において、全国農業協同組合中央会会長賞を受賞しました。



復興応援大豆



みさを大豆の種まき



## 2 農業体験活動の取り組み効果

幼・保・小・中学校との「みさを大豆」の栽培体験と料理体験を通して、地域固有の農業資源や文化を受け継ぎ、それを次世代へ伝えることの大切さを実感し、充実感と達成感を得ることができたとのことです。

また、子どもたちへの効果として、農業体験を通して、自分たちが栽培して、自分たちで調理した野菜や大豆はとても美味しく食べることが出来たという子どもが多く見られたことから、草取りや害虫駆除など野菜や大豆を栽培する過程での苦労を経験することで、食べ物を大切にするという想いが芽生えていることが伺えます。

## 3 今後の取組における課題等

今後の取り組みにおける課題として、

- ① 「みさを大豆」の普及と幼・保・小中学校等との交流活動の継続
- ② 地域の在来作物と文化の継承
- ③ 農業高校にできる復興応援活動の継続

が上げられており、取り組みの継続を如何に図っていくかが今後の課題となっています。

## 4 最後に

ピーマン嫌いの子どもたちがピーマンを食べられるようにと始まった農業体験の交流の取り組みであるが、ピーマン嫌いだった幼稚園児が現在、鹿本農業高校に入学し、農業や食について学んでいます。また、小学校6年生の時に大豆栽培・豆腐作りに取り組んだ児童が鹿本農業高校へ入学し交流活動に取り組み、熊本県立農業大学校に進学・卒業後、実家の農業を継ぎ、現在は自らの畑で「みさを大豆」の作付けを引き受けて、「みさを大豆」の普及の一翼を担っています。このように、14年間の鹿本農業高校食農研究会の取り組みは、時を超えて繋がり、地域を越えて繋がっています。

ライフステージに応じた間断ない食育推進の取り組みが重要であることから、鹿本農業高校食農研究会の幼・保・小・中・高が連携した取り組みは、農業体験などの食育推進において、とても参考となる取り組みであり、今後も取り組みの進化が大いに期待されます。



みさを大豆の紙芝居



みさを大豆ホットケーキミックスを使った調理交流会